

発表案件

1 アース・セレブレーション2016の開催について

今年で29回目となります「アース・セレブレーション」を8月26日から28日までの3日間、小木みなと公園を主会場に開催いたします。

今年は、城山コンサートを中心とする地域の音楽イベントから、佐渡の伝統文化、芸能、自然、人や集落の魅力を体験いただける新たな佐渡全島の祭りとして見直しました。佐渡の魅力を幅広く皆さまに楽しんでいただくイベント内容としています。鼓童メンバーも、大きなコンサート会場から離れて、これまで以上に身近な存在として、各地区でのイベントに参加いたします。各地区で行われるイベントとして、両津地区では、佐渡のアーティストが地域の自然と魅力を芸術として発表する「さどの島銀河芸術祭2016」、相川地区では北沢浮遊選鉱場跡でのベトナム伝統音楽芸能団とフラメンコとの競演ライブ、佐和田地区では佐渡産の竹をPRし芸能を楽しむ「むっさんこ佐渡祭り」、小木地区では「ごぜ唄」、浪曲などの披露を行う「小木演芸場」や小学生向けワークショップとして、宿根木の町並みを探索しながら音を楽しむイーシー・ディ・キャンプを開催します。また、プレイベントとしまして期間前日の25日には、相川春日神社を会場に創作ダンスの森山 開次さんが出演する「佐渡薪能公演」も開催いたします。

島外のみならず市内の多くの皆さんからも佐渡の魅力を再発見していただき、より楽しんでいただけるイベントとなっておりますので、ぜひ多くの参加をお待ちしています。

2 映像制作プログラム「クリエイティブ サマーキャンプ2016」の佐渡開催について

一般社団法人マイジャパンが企画・運営する若手クリエイター対象の映像コンテスト「クリエイティブ サマーキャンプ2016」が8月26日から28日にかけて佐渡市で開催されます。

今回の佐渡開催は、「交流居住・定住促進対策事業」の一環として誘致したものであります。コンテストでは「暮らしの中にある佐渡島らしさの表現」をテーマに30秒の地域PR動画を制作いたします。制作された動画のうち、優秀作品は渋谷のスクランブル交差点の大スクリーンで放映されるため宣伝効果も期待できますし、佐渡市のホームページほか移住促進イベントなどで有効活用し、移住定住促進に繋げていきたいと考えております。キャンプと名が付いていますように、29歳以下の若手クリエイターが3人一組で開催地に足を運び、講師陣のアドバイスを受けながら現地で感じた魅力を2泊3日という限られた時間の中で撮影・編集し、30秒の作品にまとめるものです。キャンプ最終日の8月28日には、午前10時からあいぽーと佐渡の大ホールで入場無料の現地発表会が開かれます。佐渡島内の優秀作品を選出いたします。若手の映像クリエイターが作った「佐渡らしさ」満載の映像を、市民の皆さまにもぜひご覧いただければと思います。

また同時期に開催しているアース・セレブレーション2016とのコラボレーション企画として、同じく8月28日午後7時45分より、小木のハーバーマーケット会場に設置される「野外出映スクリーン」で作品を公開する予定です。観光客の皆さまにも佐渡の魅力を発信してい

きたいと考えています。

3 佐渡国際トライアスロン大会の開催について

佐渡の活性化とスポーツ振興・観光振興を目的に、平成元年から開催している佐渡国際トライアスロン大会も、今回で28回目を迎えます。今年も多くの方からエントリーを頂きました。Aタイプが1,063名、Bタイプが821名、Rタイプが312名、延べ2,196名の方々が参加され、この他、前日の9月3日に開催されるジュニア大会にも、107名が参加を予定しております。

9月4日当日は、河原田小学校グラウンド前海岸からタイプ別に競技が始まります。Aタイプは午前6時、日本選手権は午前7時20分、Bタイプとリレータイプは午前7時30分にスタートいたします。今年、道路工事の関係でランコースを変更し、河原田小学校グラウンドから八幡小学校を経由して、金丸地区を通り、畑野行政サービスセンターを折返すコースで、Aタイプはコースを2周する周回コースとなりました。

また、競技以外での新たな試みとして、大会前々日の金曜日に、参加選手、運営スタッフを交えた「島祭りパーティ」を、サンテラ佐渡スーパーアリーナで開催します。鼓童の出演もあり、佐渡の食材や地酒を味わいながら、参加選手と触れ合う場として、多くの市民の方からもご参加いただきたいと思っております。なお、「島祭りパーティ」は有料で事前の申込も必要ですので、詳しくは佐渡市スポーツ協会までお問い合わせください。

その他、大会前日の開会式会場のアミューズメント佐渡では、佐渡市の主な取組を紹介するコーナーを設置するほか、多くのテナントも参加していますので、ぜひお立ち寄りいただければと思います。

本大会は、多くの市民ボランティアの参加や、ノーカードーなど市民の方のご協力をいただき運営しております。あらためて感謝を申しあげると共に、重ねてご協力をお願いいたします。

4 特別警報・記録的短時間大雨情報発令時の緊急放送について

7月29日の午後7時前、新潟県に記録的短時間大雨情報が発令され、佐渡市の緊急情報伝達システムがその情報を自動放送しました。当日は、魚沼地方近辺での大雨で、幸いにも佐渡での大雨は観測されませんでした。

特別警報と記録的短時間大雨情報は、数年に1回程度しか起こらないような甚大な被害が予想される場合に気象庁が発表する情報です。この情報は、県単位で発令されますため、佐渡の天候にかかわらず県内の一部地域でそのような気象状態になった場合、緊急情報伝達システムの戸別受信機から最大音量で放送される仕組みになっております。

市としては、重大な被害が発生する可能性のある緊急度の高い情報であることから、発令されれば24時間いつでも最大音量で放送する運用にしております。安全で安心な地域づくり、災害に強い島づくりのためこの点をご理解いただけますようお願いいたします。

5 企業版ふるさと納税に係る地域再生計画の認定及び地方創生推進交付金の交付予定額内示について

去る8月2日、内閣府より、企業版ふるさと納税に係る地域再生計画の認定を受けましたのでここにご報告いたします。

企業版ふるさと納税は、地域再生計画に記載された地方創生に係る事業に対して企業が寄附を行うことによって、税制面の優遇を受ける制度です。従来の制度では、地方公共団体への寄附によって、寄附額の約3割相当額を損金算入することができました。企業版ふるさと納税の特例措置では、寄附額の3割相当額が税額控除され、合わせて6割相当額にもおよぶ税の軽減効果が受けられます。

今回、佐渡市の地域再生計画では、インバウンド対策の充実を掲げた「観光立島 佐渡」計画が認定されました。内容としては、海外へのセールス、SNS等を活用したPR、ホスピタリティの向上、新潟空港を活用したインバウンドの受入を計画しており、本年度の事業費については、1千162万9千円を予定しています。企業の皆さまには、是非ともご協力を賜りたいと思っており、各企業に対しPRを行うとともに、佐渡市としても積極的に制度を活用していきます。

続きまして、同じく内閣府から、地方創生推進交付金の交付予定額の内示がありましたのでご報告いたします。

地方創生推進交付金は、地方版総合戦略に基づく自治体の自主的・主体的で先導的な事業を支援するもので、地域再生計画で計画された事業費の2分の1の額が交付されるものです。佐渡市では地域再生計画に基づき①「佐渡米ブランディング事業」、②「佐渡版DMOを核とした地域づくり事業」交付金の申請を行いました。

満額の内示とはなりませんでしたが、両事業とも佐渡市の地方創生実現のために重要なものでありますので、着実に実行して参りたいと思います。

6 佐渡から国際映画スターを！映画出演者を募集します

フィルムコミッション佐渡では、映画の主演と準主役級の子役を募集しています。家族愛がテーマの長編映画「SMOKE ON THE WATER (スモーク・オン・ザ・ウォーター 仮称)」は、釜山国際映画祭による脚本企画コンペで資金援助を受けることが決定した日本で初めての企画であります。先ごろ、監督とプロデューサーが佐渡でロケハンを行い島内で撮影することが決定しました。その監督とプロデューサーから依頼を受けてフィルムコミッション佐渡でオーディションの開催に協力することになったものです。

今回募集する子役は、主演となる小学校6年生の設定の男の子、その弟または妹役の小学校1年から3年生。小学校6年生役で転校生役の女の子の3名ですが、いずれも、それくらいの年齢に見えれば具体的な年齢は問わないというものです。オーディションは、8月21日午後3時からアミューズメント佐渡を予定しています。富名哲也監督とプロデューサーによる簡単な面接によって一次審査を行います。一時審査通過者には、後日、保護者同伴での面談を行います。自薦他薦は問わず、ご応募いただける場合は、21日当日にオーディション会場へお集まりください。なお、撮影時期は冬となりますので、なるべく学校の冬休みや土日などに行え

るように考えておりますが、撮影期間を3週間くらい見込んでいるため、相談させていただく場合があるとの事です。

国際映画祭でデビューするというまたとないチャンスですので、奮って、ご応募して頂ければと思います。なお、詳しい情報は、佐渡市公式フェイスブック、佐渡市ホームページ、佐渡観光協会のホームページにも掲載していますので、ご参照ください。

事前質問

○三浦市長は先の「佐渡新航空路促進協議会総会」の中で、加茂湖側への法線変更とした1,500m滑走路の実現に期待感などを示したそうだが事実か？そうであればその真意は？

これにつきましては、当日専門家の先生による講演がありました。この中でその先生から現状の中で言うと1,200mのコミューター機導入という考え方もあるなど、いろんなアイディアご意見等々をメンバーの皆さんに示されました。それを踏まえ、その後の懇親会の中で例えばの話として“現状の滑走路をそのまま加茂湖方面へ延長するなどして、もし1,500mくらいまで延長可能だとしたらどんなものになるのでしょうか”という質問を先生にしました。それを踏まえた先生のお答えは“今の滑走路の向きでは両側とも山脈が絡んでくるので、現実的にはそれは無理です”というお答えを頂きました。このように先生の基調講演を踏まえていろんな角度からの質問をざっくばらんにした中での話しでありまして、期待感を示したという話ではございません。

○国の文化審議会が「鉱山社会について説明を明確にする必要がある」などとして、“佐渡金銀山”が国内推薦候補に選ばれなかったが、佐渡市役所は説明文書を作成するプロ。3月までに推薦書提出して以降、新市長体制となってもやるべき事はかなりあったと思われることから、結果は新潟県任せの市政でありお粗末ではないか？

7月25日、国において国内推薦の候補が長崎に決定いたしました。審議の過程で出された「佐渡金銀山」の課題等について、当日文化庁が行った記者会見で、「顕著で普遍的価値を主張している「鉱山社会」について説明をもっと明確にする必要がある」との発表があり、「見送り」になった要因であると理解しています。

ただ今回の会見で大きな期待として感じたことは、昨年の課題では「顕著で普遍的な価値の解りやすい表現」と漠然とした指摘であったものが、より具体的な内容で示されたことから、推薦書の完成度はかなり高まったものと感じています。

今後文化庁より今回の結果について正式な通知があるものと思いますので、その内容を分析し今後の学術委員会でもご審議いただき、より完成度を高めてまいりますつもりであります。

またご指摘があります推薦書の作成につきましては、構成資産の調査、研究、分析等を文化庁や県のサポートを受けながら市が中心となってい、その結果に基づき県と市で原案を作成、文体やページデザイン、英文訳など専門的な要素をプロの業者を交えながら作成しています。

推薦書は説明資料としてだけでなく、一つの作品として完成度をあげるために高度な技術を要請されますので、関係する県、市、業者と共同作業で取り組んでいます。

今年3月の推薦書提出以降、県、市ともに、登録に向けた普及活動や学術的な業務等々を頻繁に行っており、決して県任せではありませんのでご理解頂きたいと思えます。

質疑応答

(1) アース・セレブレーション 2016 の開催について

<記者>

今回から城山コンサートがなくなって大きな転換点となるわけですが、来年以降2017年もこの方針を続けていくおつもりでしょうか？

<市長>

今回大きな転換をする。初めてのやり方ですのでいろいろな課題も出てくると思います。それを踏まえて来年以降の展開を考える予定ですが、基本的にはアースセレブレーションは島全体のお祭りという位置づけの中で展開方法を改善修正していきたいというふうに思っています。

<記者>

ということは、コンサート中心から地域のお祭りになっていくという方針は続けていくということよろしいでしょうか

<市長>

“コンサートを一切やらない”ということも決めているわけではありませんので、来ていただいたお客さんの反応も踏まえながらよりベターな取り組みにする。ただし、今までですと小木地区中心の城山（コンサート）中心のお祭りという形だったものを、佐渡全体に広げていこうという基本的な考え方は今後も続く予定です。

(2) 映像制作プログラム「Creative Summer Camp」の佐渡開催について

なし

(3) 佐渡国際トライアスロン大会の開催について

なし

(4) 特別警報・記録的短時間大雨情報発令時の緊急放送について

なし

(5) 企業版ふるさと納税に係る地域再生計画の認定及び地方創生推進交付金の交付予定額内示について

<記者>

地域再生計画の認定というのは、これはどこの市町村でも認定されるものですか

<市長>

今回認定された数…

<総合政策課長>

地域創生応援税制ということで、地域再生計画に出したものが企業版ふるさと納税の対象になるという仕組みで、地域再生計画を内閣府に提出しています。当初の段階で105申請があったと聞いていますが、認定されたのが全国で102、県を含めた市町村が認定されているという状況です。

<記者>

新潟県内では

<総合政策課長>

新潟県内では、長岡市・十日町市が2本、見附市・糸魚川市が2本、佐渡市ということになっています。

<記者>

2本？

<総合政策課長>

2本というのは2計画ということです。1市町村から2計画、計画はいくつか出せますので

<総合政策監>

正確に言いますと地域再生計画というのはもともと佐渡市もあったんですけども、今回法律が改正されて制度が変わりました。それで企業版ふるさと納税や新型交付金が地域再生計画と連動して認められるようになりまして、今般は新しくできた制度の我々が応募したものの内示ですので、もともと佐渡市も地域再生計画があつて内閣総理大臣に認定されていました。その中身を今回変えて、出して、制度の部分が内示されましたよというのが国から示されましたのでそれを今回記者発表させていただきました。ですので、地域再生計画が県内でいくつありますかという質問には戻って調べないとわかりません。今回お配りしたのは地域再生計画の制度の内示です。

<記者>

他にもこういった形でやっているところがあるということですか

<総合政策監>

地域再生計画は佐渡市も元々ありましたし、他の市町村も作られているところありますけれども全ての市町村というわけではありません。

(6) 佐渡から国際映画スターを！映画出演者を募集します

<記者>

これは資金援助を受けることが決まったのは、釜山国際映画祭から資金援助を受けることになったもの？

<観光振興課長>

資金援助につきましては、釜山の国際映画祭の方から映画の制作の方に資金が行くという事になっています。

<記者>

金額はどのくらい

<観光振興課長>

1千万円です。

<記者>

スモークオンザウォーターというのはどういう意味？ハードロックグループの曲名だけど

<観光振興課長>

タイトルはロックの曲名…

<記者>

ディープパープルの…

<観光振興課>

内容は、家族愛をテーマにした映画ということになっています。

(5-1)事前質問 (空路)

<記者>

滑走路の問題ですけども、ずっと打開できていないずっと続いていますけども、今回の総会の中でもいろんなやり方があるといっていますが、市長としては今後の同意が付けられないとかいろいろあると思うんですけど、どういったふうにしたら前進ができると思いますか。

<市長>

現状の2km化の計画は現状そのまま努力を続けている状況ですので、地権者交渉については必死にやっという事です。ただ、促進協議会の中でも話しがいろいろ出ましたが、現滑走路を活用した佐渡新潟間の定期航路再開ということについても協議会メンバーの皆さんそれぞれが何とか実現したいと思っていますので、現状も定期航空路の復活に向けた努力も含めて県と一緒に折衝して候補となる航空会社とも折衝を続けていますので、このあたりは両方とも同時並行でやっていくことになると思います。

<記者>

定期航空路の新潟佐渡間は何社くらい話しているんでしょうか

<市長>

現状、具体的なやり取りをしているのは1社です。

(5-2)事前質問 (世界遺産)

<記者>

もうちょっと市民に説明する場があってもいいのかなと思うんですがいかがでしょうか
シンポジウムなんかはいつも新潟市でやっているんですが、島民向けでしっかりやったらどうかという事と、推薦書の内容が抽象的で詳細が分からない。もう少しオープンにしたらどうかという事ですが

<市長>

今回見送りになった結果についても、おそらく今月内に文化庁から去年同様に別個の課題の具体的な指摘もあると思います。その内容を確認して精査したうえで改めて市民の皆さんへの説明も必要だと思いますし、次年度へ向けてのどのようなやり方、改善策を見出してい

くかという事を検討しなければいけないと思っておりますが、現状は先日25日の記者会見で全体の評価の中の一部だけ記者会見で文化庁サイドから発表されただけですので、細かいものが去年も一定期間経ってから届いていますので、それを踏まえてからの検討説明になると思っております。

<記者>

市民はこういう状態の中で、新潟県出身の奥さんがいる国会議員も全国にいて、文科省に影響力のある大物もいる。さらに、文化庁にも…という関係者もいるんですが、そういった人たちに佐渡市としては、県と一緒にしょうけど県の国会議員の会もあります、そういった人たちの応援を求めて、あの期間の中でいろんなお願いをして欲しかったなあということもあります。だから、出したからといって文書について公にしろというのではなくて、出したら出したで別の三浦新市政のやり方で何としてでも実現に持ってってもらいたかった声がある。

もう一つは島の情熱を伝える催しをどんどん中央へ出せるようなものを1年のこれまでの計画以外に、新たなスポーツ新聞の感覚で出して行ければ仮に来年たいへんな目に遭っても地域が盛り上がるし、それが当初の狙いではないかという声もあるんですね。いかがですか？

<市長>

今おっしゃった、私がメディアにいた感覚などに対する期待していただく声があがっているのは非常にうれしいですし、頑張らなきゃいけないと思っております。今回4月からこれまで3ヶ月間については表に出ている部分、水面下の部分も含めて市として文化庁の上層部の方を招いてこちらでもう一回見ていただいたり説明会を開いたりとか、こちらから東京サイドにも文化庁に限らず関連する、影響されると思うところについてはいろんなやり方で働きかけを続けておりました。ただ、目に見える形でデモンストレーション的なものがやれたんじゃないかという点につきましていろんな評価があると思っております。来年度また挑戦するわけですから、そこに向けて、新潟だけじゃなく佐渡ももっと盛り上げて行くために更にどういうことを新たにやっていけば良いのかこれから市で考えていきます。

<記者>

関連して、今回2回目ダメだったということで、今後来年挑戦するかと思うんですけど、来年受かるというか決まる確証がないわけですけど、運動の面で機運とか長引けば長引くほど地元住民とかのモチベーションを保つのがたいへんかと思うんですが、順番の何番目で決まるとか、国のやり方についてどう考えていますか。

<記者>

今年は長崎ってほぼ決まっていたわけで、それをもうちょっと文化庁もスッキリ明確にして欲しいなという一方で、もういよいよ暫定リストも減ってきて、もう一回全部やり直してという話もあるわけで、そういう中で佐渡市としてどういう位置づけで頑張っていくのか、今年は絶対ないと文化庁の課長まで個人的には言っている…

<市長>

今言ったことに対して、コメントできる範囲ではないので

<記者>

長崎優先なんでという

<市長>

それは取材の中での話して、私がマイクの前でそれに対するコメントはできませんので、それはこちらが直接明確に…

<記者>

文化庁自体のやり方がおかしいんじゃないかという批判も出ていて、北海道なんかもかわいそう

<市長>

申し訳ないですけど、文化庁に対して批判するという…

<記者>

批判とかではなくて提案や、やり方について提言した方が良いのでは

<市長>

それは、別途個別にさまざまな形で説明を求める動きはすると思いますが、メディアを通じてそういうことをうったえたり批判めいたりするものではないと思っています。あくまでも佐渡市と県、文化庁との直接のやりとりの中でいろんな場面は出てくると思います。

<記者>

直接のやりとりは公開されないんですか

<市長>

公開されないものの方が多いと思います

<記者>

何で公開されない、市長はガラス張りの市政を目指すと行って、特に世界遺産に関してはガラス張りであるべき事だと思うんですけど

<市長>

それは、誤解しないで頂きたいのは、諸々の現状の動きとか、佐渡市の動きは公開していきますけど、文化庁そのものの動きが公開される云々についてはこちらが判断できるものでないので

<記者>

それはあくまで佐渡市が入手した情報

<市長>

入手した情報で可能な限りは公開していきます。来年度に向けても、ただ、文化庁から入手した情報が全て公にできる内容であるかどうかというものと、段階的な途中情報であるというもの、一概にここで全てとは

<記者>

プロセスが大事だと思いますので、できるだけ公開して頂きたい

<市長>

可能な限りはします

<記者>

そのために三浦さんが市長になったと個人的には思っていますので、非常に非公開、閉鎖

的な特に世界遺産はひどかったので

<市長>

そこは、人によって判断がいろいろと有るんですけど、私自身の方針として可能な限りの公開は続けるというのは、他のものも含めて変えておりません

(6)発表案件以外

庁舎

<記者>

先日、(議員) 全員協議会で示された新庁舎の見直しの問題ですけど、市長は選挙戦では民間の視点からもっと安くできるとそういうふうにある意味公約でうたえてきたわけですけど、出た結果は甲斐市長の設計とほぼ同じような形になった、これはある意味公約違反のところがあると思うんですが、その辺どうですか。

<市長>

私は公約違反だとは思っていません。今回、現状ここまで進んで来てある程度基本設計が終わった中で削られる部分をさまざま検討した結果、約1億8千5百万は削りました。それ以外まで更に修正していこうとすると、完全に基本設計からやり直しということになります。その場合にこれまでに使った費用はもちろんです、例えば合特債を使えるかどうかを含めたところでそこまで修正する時間的なものは無い中で、こちらとしては基本的な考えとして、現状の基本構想がこれからの20年後を前提として組まれた基本構想でありますので、20年間のトータルコストの中でどこをどう効率化できるかというのをランニングコストも含めて一部華美な部分を削ったりする分を含めてトータルで計算させて頂いた中で現状の計画と同じ計算式の中で、先日の全員協議会で提案させて頂いた案がコスト効率としてよりベターだということを出させて頂いた。

<記者>

チョットそれは言い訳に聞こえるところがあるんだけど、これから設計したら間に合わないというのが言い訳で、それは選挙戦で訴えてきたことと違うんじゃないですか

<市長>

選挙戦の時も、華美な部分も含めて豪華な部分も見直しが必要ではないかという部分で見直した中で出てきた金額は私としては残念ながらですけど1億8千5百万までしか出せなかったという所はあります。

<記者>

そこは、金額的には大幅な設計の金額が減らせられるようなお話しを選挙期間中はしてたと思うんだよね

<市長>

もう少し削れるとイメージ的には思っていました。ただもう骨組みも基本設計の中で確定している中でのとなると必死にやってみたんですけど、残念ながら2億弱ということになったのは事実です。

<記者>

あの選挙戦の言葉でだいぶ市長を信頼して入れた人が居ると思うんで、結果的にはあまり

金額は変わっていないな、以外だなと思う市民も多いと思うので

<市長>

金額的に不満に思う市民の方も当然いらっしゃると思います。現状の骨組みと言いますか建物そのものの基本設計を変えないという中で言うと、結果あれが精一杯だったという、私としては満足している結果ではないのは事実です。

<記者>

その満足していない部分を現庁舎まだ20年使えるというのに、それを取り壊すというのは、A案、B案トータルでランニングコストとか管理維持費入れて6億円の差だと言いましたよね。

<市長>

概算6億から6億5千万

<記者>

6億円の差で現庁舎あと20年使えるのに、これ建てたら40億、50億の建物ですよ、それを壊してしまうという理論がわからないんだけどね

<市長>

それ以外に、修繕、リニューアル、立て替えを終えている支所・サービスセンタートータルの投資金額、今後のランニングコスト等々を考えると、要はあのB案の前提の考え方とすれば市の庁舎が今まで10個だったものを単純に言えば今度11個になるという考え方なので、そのランニングコストについては、ほか既に全て来年度までにリニューアルを完了する中で、そのトータルのランニングコストは他の庁舎の活用も含めてよりベターなものとして提案したと言うことです。

<記者>

しかもパブリックコメントを15日くらいから始めるという話を聞く、あのA案、B案、C案だけ出されても市民はわからないですよ。住民説明とかやるべきじゃないですか

<市長>

その辺も含めて検討中です。

<記者>

先月3日、両津夷の店舗兼住宅で火災があって遺体が3人出てきた。それについて質問ですが、それが燃えさかっていた状況でですね、たいへんな爆発もあった、跡地からはストーブが形は残っていないけど5個あった、さらに灯油が相当あったらしい、あの火ですからね。消防が両津署を中心にYホテルの前の消火栓を開けてみたところ水が出なかったんですね。これは、昨日両津署へ言って確認したらそうだというんですね。つまりですね、一番大事な火を消すべき時にその消火栓が使えなかった状況を、消防が悪かったんじゃないんです、消防は非常に消火活動をやりたいへんななかで、ところがですね、消防署員も昨日驚いていたのは、あんな絶対に信頼できる消火栓で水が出ない状態なんて初めて。更にその水が何とかやりながら出るようになったものの、三階まで届かなかった、これが当初の状態をやむなくもう一つの消火栓から水を引っ張って、更に消防団は加茂湖から水を出した。このロスがなんだかという、両津支所水道課の水圧の調整の関係らしいと言うことで、消防が翌4日

に状態を伝えて抗議しているんですね、つまり6時とか7時とか水をどんどん使う時間帯に水道の水を使っているのなら水圧が下がるのもわかるんだけど、ほとんど寝ている時間帯で水がでない状態、これはもしもう一軒どこか燃えていたらお手上げな訳です。だから一体その我々取材して、こんなあってはならない状態、かつては消火栓の蓋が取れなくて甲斐市長が謝罪しましたが、しかし、今回はそれがもし消火栓を活用していれば3人のうち誰か助かった訳ですよ、消すことができる訳ですから。もうたいへんな混乱だったんだそうです、それを署員の懸命な努力、延焼が少なかった。ある程度火は走って行って一部燃えたところはありますがあこまで食い止めた。これは見事立派なんです、そうすると、水道課の水圧の関係というのは、あの状態でどこで火事が起こるかわからないという予想される7月ですよ。これは異常事態と市民が言うておりましたし、あるはずの消火栓が使えないというのは冗談じゃないよ私ら防火委員というのをやっていて市との懇談もやっているんだからこれは徹底して原因を追及して欲しいというこんなことを言っています。聞きたいのは市長は現場にもいたそうですが、その状態でどういう報告を以後受けましたか、あとどういう指示をしましたか。

<市長>

今ご指摘を頂いた件について、こちらが報告を受けている範囲で説明いたしますが、今おっしゃった消火栓のバルブが全回ではなく半開状態になったまま、当初想定の水圧が出なかったという報告は受けました、ただ、水は出なかったという報告は受けていません。ただ、水は以降水圧が弱かったというのがあります、この消火に当たっては3つの消火栓からホースをもってきて消火活動に努めていたので、この消火栓の分岐バルブのところは全開でなく半開になったまま十何年、合併以前から続いていたという報告を受けています。これについては、市としてのこれまでの十数年におよぶ点検がけっしてしっかりしていたかどうかというところについてはお詫びする以外にはないと思いますが、今ご指摘頂いた水が全く出なかったという報告は受けていなくて、水圧が満たされたかったという報告が来ています。

<記者>

これは現場の住民の人たちが言っているんですね。水が出ない、どうなっているんだと皆怒っている訳ですよ、その人達が出てるのに出てないなんて言うはずがありません。そして、両津の鷺崎の方から消防の応援隊も来ました。応援隊というのはまず20分以上かかりますよね、いくら緊急車両だと言っても鷺崎から来るんで、その段階で署員は水圧が低いということになると、市長これは水が出ないということに変わらないことになりませんか？3階にだって水は届いていなかった

<市長>

そこは詳細はチョット、時系列で言うと20～30分はかかっていなかったと報告を受けている。詳しいことは消防長から

<消防長>

この件についてご説明させていただきます。当初消火栓、ウチの方、両津地内で4箇所に部署いたしました。その内の1箇所で今言われた事案がありました。これについては、全く出なかったということではなくて水圧が十分ではなかったと報告を受けています。また、それについては時間的なものについては当初の5～6分という形で受けています。なお、鷺崎の方

から来たというような形ではありますが、それについても時間的には5時25分くらいに現着しているというような状況です。

<記者>

消火するだけのあれは5キロですよ、そういうふうに聞いています

<消防長>

水圧のことについては水量と圧力の関係がありますが、まあ5キロくらいあれば大丈夫だということです。

<記者>

ですから、あの状態でもう1件火事があったら大変だったんじゃないですか、あの地区で類焼・延焼してたら

<消防長>

それについては、ラインですね、消防の消火戦術によってその地区その建物を全て取り囲むようにしていますので、あれ以上の類焼については完全に防げたかと思っています。

<記者>

それは結果なんですね。市民が昨日の段階で非常に心配だと、隣の人、まわりの人達もそうですよ。これは、消防が悪いとっていないんです。水道課の水の調整、管とのね、そういったものをなぜあそこだけ周辺にはよく火事がある場所といわれているわけですから、そのあたりが対応してなかったのかということになるんですが、あそこでまた火事があれば大変な状態ですよ。

それに消防署が市役所の両津支所の水道課に話をしてそれを受けた水道課が、市役所本庁の防災危機管理室にいて市長に知っているんならわかるんですけどね、わかるというかあってなならんことですけどね、とにかく3人亡くなっているというのは大変な火事・災害な訳ですから、そのあたりというのを住宅街で大混乱してやっているというのをやはり市長は市長で話しをしましたが、消防署さんも緊急の点検とか取りかかった方が良いんじゃないですか。市民も不安に思ってます。

<上下水道課長>

今他のところで火事があった場合という事でしたけども、街の中ということもあり管網といますか、いろんな所から管網状態、網の目のようになっていますので、口径自体も200mmという大きさのものが入っています。佐渡市の中でも大きい配管になっています。他の所の消火栓を使った場合も水は出るというふうになっています。

<記者>

それは良いとは私は思わないですね、じゃあ、家庭で皆水を使ったら更に水圧下がるんじゃないですか、あの時間帯でさえそんな状態なのに6時か7時火事になったら大変なことになる。今だとそこまでやってるから良いんだという論調にとれますけどそれ違うでしょう。それに、本庁に報告しています？

<上下水道課長>

私、本庁の上下水道課長でして、報告は受けています。

<記者>

受けていて点検はちゃんとしたんですか、大変な事態じゃないですか

<上下水道課>

点検といいますか、佐渡全体で消火栓というのは、今半開になっていたというバルブが付いているものと全くついていないものがあります。付いているバルブは常に全開状態ということで、工事が終わった段階でそのようになっている。無いものについてバルブはないわけです。バルブ事態は何かあった時、例えば更新の切り替えの時しか触らないものですし、点検というたぐいのものではなく常に全開の状態であるということですが、こういう事態がありましたので、この後は島内全部点検・確認するようにとの市長からの指示がありました。

<記者>

いつから実施するんですか

<上下水道課長>

早急にしたいと考えています

<記者>

この話が昨日動かなかつたら、そのままだったということですよ

<消防長>

その件については、両津消防署から両津支所の水道課にその日連絡したんですが、その日曜日でしたので翌日正式にそういう結果と聞きましたし、計画的に全て点検する報告も受けていています。

<記者>

だからホームページでそういうことを載せれば良いじゃないですか、そういうふうになって点検をするんだ、反省して設備はこうですよ、緊急時の場合は消火栓は大丈夫だということをするのが行政の仕事だと。地域の立場だとそうですよ、皆さん関係者だけわかってても、皆さん昨日までわからなかったんですよ、だからそういうのは指摘された段階で改めるようにする、いかがですが今後は、だって3人亡くなっているんですよ

<上下水道課長>

点検につきましては、この後取りかかるようにしたいと思いますし、皆さんへの安全につきましては、この後検討させて頂きたいと思います。

通常の状態に戻る事になるので、内容については検討させて頂きたいと思います。

<記者>

検討というのはやらないことの代名詞ですよ

<市長>

今言った意味は違う、告知・説明の方法について検討させてくださいといっているので

<記者>

市長やりますよね

<市長>

それは責任をもって、確実に点検が終了した場合を踏まえてホームページやタイミングによっては市報で報告するとかいろんな方法があると思うので、今のは何もしない発言ではないと受け取って頂ければと思います。

<記者>

点検は既にもう始めていなければならぬんじゃないですか。これからやりますじゃなくて

<上下水道課長>

当時の工事と同じ頃の夷の街のものについては点検を終えたところです。全体についてはまだこれから

<記者>

早急にやらなきゃならぬんじゃないの

<上下水道課長>

夷地区については始めています

<記者>

夷は終わったんですか

<上下水道課長>

全部じゃないんですけども、その年あたりに設置したものについては

<記者>

基本的にバルブが半開状態だったのが1箇所ということですが、他は全開していて、基本は全開状態なんですか

<市長>

基本は全て全開状態の設定だそうです

<記者>

何で半開状態になっていたんですか、その原因はわかったんですか

<上下水道課長>

原因につきましては、工事は布施替えとして平成10年に行われ、当時両津市の発注を受けて工事を行った。検査の時にバルブが全開となっていないまま引き受けたものと思われる。

<記者>

定期検査みたいなものはするものじゃないんですか

<上下水道課長>

定期検査というのは、消火栓を移設するとか、取り替えとかが無ければ触らないです

<記者>

消防で消火栓の圧の検査って定期的にやらないの

<消防署>

やっています。年4回やっています。それについては、すべて消火栓を全開にして水量を出すということではありません。若干水が出るかどうかと、圧力の検査はします。ですから、全体の水量が出るのと圧力は別です。

<記者>

圧力は一定レベルあったということ

<消防長>

それは検査の時にはありました。また、一般の水道もそうですが、蛇口をひねって全開で水を出す時の圧力と、止めて少し水を出すのと圧力に関してはポンプから送る圧力は同じですが、その時の圧力だけで水量までは検査していませんので、圧力はあったということです。

<記者>

だって3階とかの建物は両津は結構あるじゃないですか、そこまでかからないっていうのは違うんじゃないですか、上からどんどん水をかけて消していく方向にしないと、あの状態では

<消防長>

消火栓の点検についてはこれからも順次やっていきたいと思えますし、異常があれば水道課に言ってそのあたりは修繕し、これまでどおりやりたいと思えます。

<記者>

3階まで届かない説明をしていない、原因は何なんですか

<消防長>

今言われるのは水圧と水量の関係で、管がいくら太くても通るところが細ければ今言ったようにバルブが細ければ開けてもその間の水量しか流れないということですので、いくらそのところで圧があってもその面積の所しか水が流れない、管が太ければ同じ圧であれば流量があるのでポンプで吸えばその分圧がかけられる

<記者>

何で3階まで届かないか説明でわからない

<消防長>

水の流量が無かったものですから、ポンプで圧力をかけることができなかった、水が流れるのが少なかったということです。

<市長>

今所長（訂正：消防長）の説明で足りないところがあると思うんですが、このときの消火作業も3箇所（訂正：4箇所）の消火栓からホースを持って行って消火していました、そのうちの1本が圧が弱かったからと言って、3階まで全く届かない消火作業ではなく、それ以外のポンプ・ホースから3階までしっかり水がかかっていた様子は確認しています。

<記者>

出なかったのはYホテルのすぐ横だったけども、現場と10mも無いところがダメだったらしいんです、これはえらいことですね

<市長>

私が今説明させて頂いたのは、このときの消火作業で一切3階まで、なんの水も届かなかったというふうに受け取られそうなやり取りになっていたものでそこだけ言わせて頂いた

<記者>

いや、市民が言ってるんですよ。届いてないって

<消防長>

今言われた消火栓は、Yホテルの所ではございません。そこのホテルの消火栓については直近であることはわかっていたんですが、火災が最盛期でしたのでその所に消防ポンプ車を持って行って活動するには余りにも現場の場所が少ないものですから、1つ手前の所から持っていったと、その消火栓が水が細かったということです。水圧は安定してなかったということなんですが、そのところで水量は出ていましたので最盛期でしたので他の所への延焼防止というところではしっかりできたと思っております。

<記者>

最初の5～6分というのは大事な時間では無いんですかということです。その時にちゃんとやっていたら、しかも両津は現場と近いところです。だからおかしいじゃないですか、市民が不思議に思うのも当然のことで、防火委員になっている人たちも皆どうしてこうなんだ、使えない消火栓なんかあるのかということなんです。

<消防長>

確かに消火栓の圧力は安定していなかったんですが、一応そのところで、圧力があるところで延焼防止というのができた。もしその消火栓が使えなければ他の所に部署してそれに対応するというのですが、そのところで対応できた、圧力は当初安定しなかったんですが対応できた。後なったら圧力はどういうわけか高くなりましてそういう対応ができたということなんです。

<記者>

佐和田で火事があったときに消防署さんは、もうそういうことが無いようにしますと言ってましたよ、そんなことがないように私たちもちゃんとやりますって当時の消防長が謝ってね

<記者>

あの時は全く出なかった、蓋が開かなかった

<記者>

“その教訓を活かしていれば”と市民が思うのもしょうがない

<市長>

いずれにしても、あの時と今回の原因も中身も違いますので、早急に点検を進めながら市民への説明報告も是非やりたいと思います。ご迷惑をおかけしたことはお詫び申し上げます。